

パル動物病院

～人と動物の絆～

よりよい関係を目指して

私たちは最先端の診療技術を生かし、地域に密着した動物病院を目標にしております。

●パルニュース 2019年10月●

- 犬の胃拡張捻転症候群について
- グリーフに向き合う

●診療時間●

●裾野センター病院

月～土 午前 9:00～12:00 (11:30)
午後14:00～21:00 (20:30)
日・祝 午前 9:00～12:00 (11:30)
午後14:00～19:00 (18:30)

●沼津病院

平日 午前 9:00～12:00 (11:30)
午後14:00～19:00 (18:30)
日 午前 9:00～12:00 (11:30)
木・祝日休診

●お問合せ●

●裾野センター病院

静岡県裾野市伊豆島田 843-5
TEL: 055-993-3135

●沼津病院

静岡県沼津市沼北町 1 丁目 5-27
TEL: 055-922-6255

●ウェブサイト

<http://pal-ah.jp>



犬の胃拡張捻転症候群について

犬の緊急疾患の中に、胃が膨らんでしまう「胃拡張捻転症候群」という疾患があります。緊急処置が必要な致死的な疾患であり、早急に動物病院で受診する必要があります。今回はこの「胃拡張捻転症候群」の症状や治療方法を解説します。

胃拡張捻転症候群とは

食後に発生しやすく、胃が捻転して内部に多量のガスが溜まり、異常に拡張します。拡張した胃によって腹部臓器や血管が強く圧迫され、血液循環が低下してショック状態になり、この状態が続くと致命的になります。

大型犬、超大型犬によくみられますが、小型犬や猫でも起こります。

症状

- ・嘔吐したいのに吐けない状態が続く
 - ・腹部が数十分～数時間以内に膨らんできている
 - ・呼吸が苦しそう
 - ・おちつかない、またはぐったりしている
- 特に「吐きたいのに吐けない」症状は胃拡張捻転が疑われます。

原因

はっきりとは分かっていませんが、水や食事を一気に食べ、同時に多量の空気を飲み込んでしまうこと、食後の運動や、胃の運動性の低下が関与していると考えられています。

診断

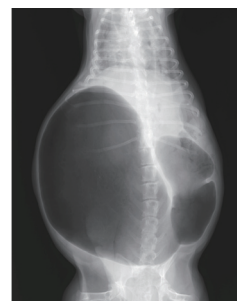
腹部のX線検査で胃のねじれと拡張を確認し、診断します。

多くは胃内の発酵ガスと食塊により、胃が腹部全体を埋め尽くすほどに拡張しています。

治療

1. 緊急減圧処置

拡張した胃に針を刺して、中のガスを抜き胃の膨張を抑えます。胃捻転の場合、ガスの逃げ道が無い場合、一時的な効果しかなく、しばらくすると再度胃は膨張します。



2. ショック状態の治療

静脈輸液や昇圧剤などでショック状態を緩和し、外科治療をできる状態にします。

3. 外科治療

全身麻酔下で開腹し、捻転した胃を元の位置へ修復します。修復後、口からチューブを挿入し、胃内容を排出します。また脾臓や胃の一部が捻転により壊死している場合には、その部分を切除する必要があります。

予防

- ・飲食後の運動は避ける
- ・食事は1日1食ではなく、2-3回に分ける
- ・早食い避ける

胃拡張捻転症候群は、発生からどれだけ早く減圧処置と修復ができるかで救命率が大きく変わります。疑わしい症状があれば、大至急対応可能な動物病院を受診してください。

参考文献

犬と猫の治療ガイド 2015「胃拡張捻転症候群」

● 今月の専門科診療 ●

今月は下記の日程で専門科の診察を行います。ご希望の方は事前にご予約ください。(カッコ内はカレンダー内の省略形です)

◆口腔科(口)

博士(歯学): 奥田 綾子 先生

◆エキゾチックペット(エキゾ)

エキゾチックペットクリニック
博士(獣医学): 霍野 晋吉 先生

◆皮膚科(皮)

アイデックスラボラトリーズ株式会社
博士(獣医学): 関口 麻衣子 先生

◆問題行動治療科(行)

博士(獣医学) フリッツ 吉川 綾 先生

◆眼科

博士(獣医学): 当院 小野 啓
毎週火曜～土曜日
(カレンダーには表記していません)
学会等で不在のこともありますので、事前のご予約をお願いいたします。

2019年10月						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10 エキゾ	11	12	13
14	15	16 口皮	17 皮	18	19	20
21	22	23	24 エキゾ	25 行	26	27
28	29	30	31			

グリーフに向き合う

グリーフとは、英語の Grief に由来し、直訳すると「悲嘆」という意味です。実際は、嘆き悲しむだけではなく、絶望や不安、怒り、無気力、心身の不調を感じる、食欲不振、睡眠障害などが生じるといった、心と体に現れる反応を示します。グリーフは誰しもが経験しうる正常な反応です。まずはグリーフについて知ることで、予期せぬグリーフに備えましょう。

○グリーフの心理過程

グリーフは以下のような心理過程を経て、回復していくといわれています。

- 1) 衝撃期：信じられない気持ちになり、思考低下、否認、緊張、不眠など、自己を防衛する反応が現れる時期。
- 2) 悲痛期：悲しみ、嘆き、後悔、自責、罪悪感、怒り、孤独などを感じる。真の心の痛みを体験する時期。
- 3) 回復期：現実を受け入れ、肯定的思考ができるようになる。思考力が戻り、前向きに考えられるようになる時期。
- 4) 再生期：別れた動物から自立し、再出発をする時期。居なくなった動物との出会いの意味を見出すことができる。

○動物と暮らす中で生じるグリーフ

動物が病気を宣告された時、治らない病気にかかり、死を避けられない病態で過ごしている時、動物が高齢になった時などにグリーフが生じます。

ありのままの気持ちを、理解のある他者に聞いてもらうことはグリーフから回復するひとつのきっかけになります。家族や友人でも良いでしょうし、動物病院のスタッフにお話しいただくことも可能です。また、動物に対して、今何をしてあげられるのか、動物目線で考えることも回復に役立ちます。病気になると、病気の事ばかりを考えてしまいがちですが、動物との日常に目を向けてみてください。穏やかな優しい声で話しかけたり、安心できる場所を用意したり、好きなことをできる機会や環境を整えてあげることで、病気を抱えている動物でも安心し、リラックスした楽しい生活を送ることができます。それが、人のグリーフを和らげる助けにもなります。

○死後のグリーフ

動物の死後、グリーフは避けられません。この時期はありのままの気持ちで日常を過ごす事が大切です。また周りに死後のグリーフを抱えている方がいた場合、否定せずに共感するようにしてあげましょう。励まそうとする声かけは、時に相手に違和感を与え、グリーフを重くしてしまうこともあり、注意が必要です。

グリーフから回復するために以下のことが役立つといわれています。

- ご遺体のそばで十分なお別れの時間をとる
- 動物の毛を少量カットして残しておく
- 手紙を書く
- 生前に動物が喜んでいたことを再現する（遺体や遺骨を抱く、思い出の場所に行く、好きだった人や動物に会う、など）
- 写真の整理

近年、動物医療においても、グリーフを和らげることができるようサポートしていく、グリーフケアという分野が知られるようになってきました。飼主の皆様と動物の声に耳を傾け、皆様がより良い時間を過ごせるようにサポートしていければと思います。ご不安な点があれば、病院スタッフに気軽にご相談ください。

参考文献

動物医療グリーフケア (interzoo)